

医学の中のドイツ語

科目責任者 能 登 慶 和
 学年・学期 1 学年・3 学期

I. 前 文

本講義では、まず日本における医学にドイツ医学もたらした影響およびドイツ人医師について、また主に明治期に使われていた医学におけるドイツ語および現在も医学用語として定着したドイツ語について学び、日本の近代医学の発展とドイツ医学の関係について理解を深めることを目的とする。

さらには、本学と協定を結んでいるドイツ・ミュンスター大学への研修（5年次）も視野に入れ、独・英両語の比較をしながら人体解剖学用語等についても概観する。

II. 担当教員

能 登 慶 和（語学・人文教育部門）

III. 一般学習目標

日本とドイツの医学的な関係とそこに見られるドイツ語医学用語を理解する。

IV. 学修の到達目標

1. 日本近代医学とドイツ医学の関係を説明する。
2. ドイツ語に基づく医学用語とその背景を説明する。
3. 各種臓器の解剖学用語を理解する。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	11	11	水	4	日本におけるドイツ医学の導入①	能 登 慶 和
2		18	水	3	日本におけるドイツ医学の導入②	
3		25	水	4	ドイツ語医学用語①	
4	12	2	水	4	ドイツ語医学用語②	
5		9	水	4	ドイツ語医学用語③	
6	1	6	水	4	ドイツ語医学用語④	
7		13	水	4	人体解剖学用語：呼吸器系	
8		13	水	5	人体解剖学用語：消化器系	
9		20	水	4	人体解剖学用語：泌尿器系	
10		20	水	5	まとめ	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

出席，課題，試験等により総合的に評価する。

Ⅶ. 教科書・参考書・A V 資料

適宜プリントを配布する。

Ⅶ. 質問への対応方法

随時受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題は随時チェックして返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）